



## つり鐘かねとおとひめ様

大雨で利根川があはれ出し、土手がきれそうになると、人々は土手にむかって、

「たすけて——。たすけて——。」  
と声をからして大声で叫びます。

竜にのったおとひめ様が川をお渡りになつてしずめて

くれる。こんないい伝説があつたからなのです。

昔、昔、はんとの昔、下忍しもしの（今の行田市）の龍淵寺りゆうせんじに立派なつり鐘がありました。このつり鐘は、寺の近くにあつた三千坊沼さんぜんぼうぬまの中から和庵和尚わあんとくが念力ねんりきによつて浮び上がらせた、竜の化身おんたまといわれる珍しいものでした。

あるとき、上州じやうしゅう（群馬県）の軍勢が忍坂にせめこみ勝つたので近くの龍淵寺のつり鐘を分どり品として持ち帰るうとしました。みんながかついで利根川を渡りはじめ、ちやうど川の真ん中まで来たとき、つり鐘は急にズシリと重くなり、かたいでいた人々の肩からズリ落ちて川の中へ沈んでしまいました。

このつり鐘がブツブツと沈んだ場所がなんと、龍宮城りゆうきやうじやうの入口いりぐちだったそうです。

それからというものは、人々の「助けてッ」という叫び声をききつけると、川底のつり鐘は、金色の竜になって、龍宮城からおとひめ様をおよびし、自分の背中にのせて浮び上がり、川面かわらをわたり、川をしずめ、人々を助けるといふのです。川底に沈んでいるつり鐘にきこえる様にと大声で声をからしてさけぶのだそうです。

つり鐘が沈んだ所を竜頭りゆうかぶ（つり鐘の頭のところ）河岸かわしと呼んでいましたが、いつの頃から竜蔵河岸りゆうざうがしと呼ばれるよう

に な っ て し ま い ま し た。

※ 竜蔵河津…羽生市上川原

